

冬の部優秀賞十首

たくぼく おも
啄木の想ひなぞりて

み やま ましろ はだ
見る山の真白き肌に

ようこう さ
陽光は射す

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

ふるさと ぬくも の
故郷の温り乗せて

すす アイジーアール
進みゆく1GR

ゆきま
雪舞いの中

群馬県高崎市 小池 敏夫

たくぼく
啄木の

ふるさとめ きた い
故郷巡ぐり北へ行く

こきいわ
クラスメイトと古稀祝いに

釜石市 谷藤 稔

なか はし きぎ
中の橋たもとの木々に

ども
灯りたるイルミネーション

かわも ゆ
川面に揺らぐ

盛岡市 鈴木 充

なんぶ
南部よしやれ

うしお うた き
牛追ひ歌も聞こえたり

みんようさかば こよい
民謡酒場は今宵にぎやか

盛岡市 堀米 公子

ま はじ
こがらしが 舞い始めたよ

つうがくろ
通学路

こえたか
りんごほつへの 声高くなる

盛岡市 西川 政勝

なが せいそう
ゴム長が正装なりと

きたぐに す しゆくめい
北国に住む宿命か

きよう ゆきか
今日も雪搔く

盛岡市 中島 久光

爺じいと孫まごふたりつくでつくった

ゆきあか

雪明り

凍いてよるつく夜あたたをとも温あたたかにとも灯ともる

盛岡市 小笠原 敏夫

夫つまが待まつ 足あし取とり軽かく

かたくり

片粟こなの 粉こなを踏ふむよな

もりおか みち

盛岡の道

東京都中野区 今井 貨預

「独ひとり居いは辛つらがつらんすよ」と

やんわり言いふ

とも もりおかべん すく

友の盛岡弁に救はれ

盛岡市 鈴木 操

盛岡の冬の特徴をつかんで詠んでいただきましたが、自然が創った美しい光景の表現の仕方

に「だいたいお悩みになった様子」が窺われます。しかし歌は、単に光景を詠むのではなく、作者の心の働きを詠んでいただければ、と思います。

平成二十六年三月選 冬の部

投稿数 九十首

選者 山本 玲子 氏